

— 「地方創生」の地域こわしに対抗する —

2017年6月10日（土）13:30～16:30 全国教育文化会館 1F 会議室

パネラー 岡庭一雄さん（前阿智村村長）

「住民自治、社会教育の村における『教育で地域づくり』とは」

村田和子さん（和歌山大学）

「高校・大学・地域の連携 —KOKO 塾がコミュニティの核に—」

山本由美さん（民主教育研究所）

『地方創生』による地域こわしの対抗軸として、教育に注目する」

今、全国で「地方創生」の名のもとに、地域の切り捨てが急速に進んでいます。特に総務省の「公共施設等総合管理計画」によって、地域の核ともいえる学校が「公共施設」の1つとして単なる財政的な理由で簡単に統廃合されています。それによって住民の生活圏である小学校区のコミュニティを破壊することができ、政府がめざす大企業が活動しやすい地域への再編がめざされているのです。

それに対する対抗軸として、「教育で地域づくり」ともいえる試みをする自治体やコミュニティも出現しています。

長野県阿智村は、「小さくても輝く自治体」の代表格として、人口 6500 人の村に、5つの小学校・保育所・公民館を維持し、地域で子育てをする方針を守っています。ただそれだけでなく、地域の高校としての阿智高校の改革—4コース化、村営“塾”による学力保障、小中学校への村費による教員加配、補習スタッフ配置などさまざまな取り組みをしています。前村長の岡村一雄さんにお話をお願いします。

また、和歌山県から、高大地域連携の先進的な取り組みとして、2002年から和歌山大学と和歌山県立粉河高校が継続的に行っている、KOKO 塾、「学びの郷」についての報告を、和歌山大学の村田和子先生にお願いします。学生たちが高校生や地域と連携する KOKO 塾は、教育、環境、まちづくり、福祉、情報といった様々な分野のワーキンググループから構成されています。

そして、「地方創生」の下で行われている学校統廃合を中心とした政策動向および、「教育で地域づくり」の取り組みについて山本由美が報告します。

島根県海士町の高校づくりが大変有名ですが、地域の高校づくりを通して「まちづくり」を進める流れがあるようです。他方、地域の素晴らしい環境の小・中学校で子どもを学ばせたいと I ターン組が多い地域もあるのです。そのような全国で起きている動向についてもご紹介したいと思います。